

第4学年 社会科学学習指導案

日時：平成26年10月10日（金） 6校時
児童：4年1組 男10名 女9名 計19名

【研究主題】ふるさとの復興を担う「人づくり」の展開 ～「自分から」かかわり、学びを深める児童の育成～

私は、震災時、市内の海岸部の磯鷄小学校に勤務していた。地震が起きたのは、校庭での体育の時間。大きな揺れがかなり長い時間続き、校庭は地割れや液状化によって水が湧き出てくるという今までに見たこともない異様な光景となった。そんな突然の状況に泣き出す子どもも少なくなかった。その後は、子ども達の安全確保、避難所となった体育館の運営に追われ、震災から3日間は、家に帰ることも、テレビから情報も得ることもできなかった。そんな中、磯鷄のまちの様子を見に行った時、愕然とした。流木で倒壊した家屋、瓦礫で埋もれ通行不能となった道路。いつものまちの様子は、そこにはなかった。避難所は、数日間、支援物資も思うように届かず、半ば孤立状態となった。この時、感じたことの1つが「道」の大切さである。普段は当たり前に行っている道、車で走行している道であるが、そのありがたさともろさを感じずにはいられなかった。

本単元「昔から今へと続くまちづくり」では、地域の発展に尽くした先人として牧庵鞭牛を取り上げる。鞭牛は、国道106号線の基となる閉伊街道づくりに尽力した地域の先人である。鞭牛は、幾多の工夫・知恵、苦心を重ねて、道づくりを成就させた。そこには「凶作や飢饉に苦しむ地域の人々の命を救いたい」という強い信念があった。学習を進めるにあたっては、様々な資料提示によって、鞭牛の工夫や努力について気付かせ、それらを支えていた強い思いを実感させていく。また、今、当たり前にある「道」にも、先人のそんな工夫・知恵、思いが隠れていることにも気付かせていきたい。単元後半では、現在建設中の復興道路（三陸沿岸道路）を取り上げる。平常時の地域住民の生活の向上、災害時の安全確保、支援物資の敏速な運搬等を目的につくられている復興道路を取り上げることで、今も昔も、そして未来に向けても、地域の人々の命を守るために「道」があることを実感させ、地域社会に対する理解と愛情を育てていきたい。

1 単元名 「昔から今・未来へと続くまちづくり【閉伊街道と復興道路】」

2 単元の構想

(1) 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

○目標

第3学年及び第4学年の目標

- (2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。
- (3) 地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

○内容

- (5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えられるようにする。

ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

○学習の系統（思考・判断・表現）

＜第3学年及び第4学年＞
地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を高めるようにする。

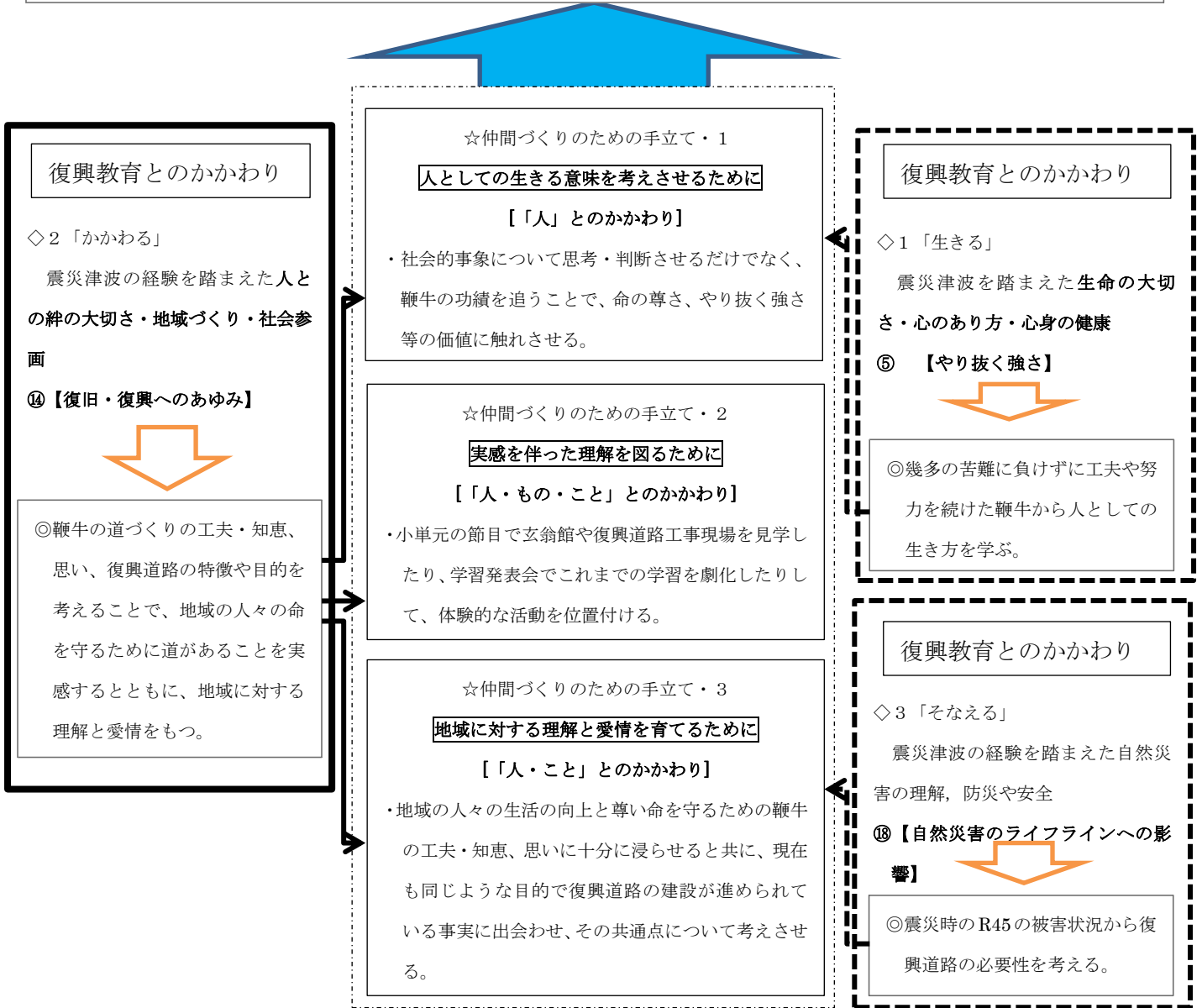
＜第5学年＞
社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を高めるようにする。

＜第6学年＞
社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を高めるようにする。

(2) 単元構想図

◎本校の復興に向かう合言葉＝「自分から」

《本単元で目指す子どもの姿》
【かかわり合う・・・仲間づくり】
 過去の鞭牛の閉伊街道作りや現在の復興道路の建設の工夫や目的、思いについて思考・判断し、地域に対する理解と愛情をもてる子



【児童の実態】

○第3学年の「地域学習」、第4学年での「安全、健康なまち づくり」の学習で、地域社会に対する理解と愛情は高まっ てきている。

- 今、当たり前に行っている道に、先人の努力があること に気付いている児童は少ない。
- 現在、道路の工事が盛んに行われていることは知っていても、復興道路の存在を意識している児童は少ない。

【単元について】

本単元ではまず、地域の先人である牧庵鞭牛を扱う。閉伊街道づ くりのための工夫・知恵、苦心について調べる活動を通して、鞭牛 の思いや道の大切さについて考えていく。

後半では、現在建設中の復興道路を扱う。平常時の地域住民の生 活の向上、災害時の安全確保、支援物資の敏速な運搬等を目的につ くられている復興道路を取り上げることで、昔も今も、そして未来 に向かっても、地域の人々の命を守るために「道」があることを実 感させ、地域社会に対する理解と愛情を育てていきたい。

(3) 単元の目標

< 関心・意欲・態度 >

- ・今昔の道づくりに関心をもち、鞭牛の道づくりの工夫・知恵、思いや、復興道路の特徴や目的について意欲的に考えようとする。

< 思考・判断・表現 >

- ・鞭牛の道づくりの工夫・知恵、思いを人々の願いと関連付けて考えたり、復興道路の目的を特徴や鞭牛の道づくりと関連付けて考えたりしながら、自分が思考・判断したことを適切に表現することができる。

< 観察・資料活用の技能 >

- ・閉伊街道や復興道路に関わる情報を効果的に活用したり、見学学習で観察、調査したことを適切にまとめたりすることができる。

< 知識・理解 >

- ・地域の人々の願いをくんだ鞭牛の道づくりの工夫・知恵、思いや、震災の教訓を生かした復興道路の特徴や目的などを理解することができる。

3 指導と評価の計画 (14時間扱い)

小 時	主な学習活動	社会科のねらい	評価規準 (評価方法)	復興教育のねらい	
動機付け	1	・50年前のR106の様子を知り、もっと昔の道の様子や鞭牛の業績について関心をもつ。	○今昔のR106や鞭牛にかかわる資料から、道づくりに対する関心や問いをもつことができる。	<関>50年前のR106は利便性に問題はあったものの地域にとって大切な道であったことに気づき、さらに昔の道や鞭牛の業績に関心や問いをもっている。 (発言、ノート)	
昔・鞭牛の閉伊街道づくり	2	・鞭牛が生きていた当時の地域の人々の生活の様子を絵から予想する。 ・年表から何度も不作、凶作、飢饉や御伝馬役に苦しめられていた状況、をつかみ、人々の「食べ物がほしい」、「広く安全な道があれば」という願いに気付く。	○地域の人々が交通難のために飢饉や凶作に苦しんでいたことを考え、表現することができる。	<思>地域の人々が飢饉や凶作、御伝馬役に苦しんでいたことを交通網の不備と関連付けて考え、表現している。 (発言、ノート)	
	3	・前時の学習や年表や地図から、鞭牛が道づくりを始めた理由を考え、その人柄について考える。	○前時の学習と年表や地図から、鞭牛の道づくりの動機や人柄について考え、表現することができる。	<思>鞭牛の地域の人々の命を救おうという思いと道づくりの動機を関連付けて考え、表現している。 (発言、ノート)	・地域の人々の命を救おうと道づくりを始めた鞭牛の思いに共感することができる。 [かかわる] ⑨ 【仲間や地域の人々とのつながり】
	4	・絵や工具の写真から難所開削のための鞭牛の知恵・工夫、思いと地域の人々との信頼関係について考える。	○工具が限られている中、難所開削のための鞭牛の知恵・工夫、思いと地域の人々との信頼関係について理解できる。	<知>限られた工具で、難所開削を進める鞭牛の知恵・工夫思いと地域の人々との信頼関係を理解している。 (発言、ノート)	・鞭牛の苦難にも負けない工夫・知恵から志を貫こうとする強い思いを実感することができる。 [生きる] ⑤ 【やり抜く強さ】
	5	・閉伊街道開通後の地域の人々の生活の変化について考える。	・閉伊街道の開通によって宮古地区の人々の生活が改善されたことを理解することができる。	<思>閉伊街道は地域の人々にとって「命の道」であったことを以前の生活苦と関連付けて考え、表現している。 (発言、ノート)	・閉伊街道の開通によって、かけがえのない多くの命が救われたことを理解することができる。 [生きる] ① 【かけがえのない生命】

	6	・北日本銀行スペシャル「岩手の人物史・牧庵鞭牛」を視聴し、これまでの学習を深める。	・これまでの学習をふりかえりながら鞭牛の生き方に対する理解を深める。	＜知＞これまでの学習をふりかえりながら鞭牛の生き方に対する理解を深めている。 (ノート)	
	7 8	・岩屋の洞窟や玄翁館を訪ね、具体物を見学したり、佐々木さんのお話を聞いたりしながら、学習を深める。	・岩屋の洞窟や玄翁館を見学し、自分の気づきをまとめることができる。	＜観＞岩屋の洞窟や玄翁館の見学からの気づきをこれまでの学習と関連付けて記録している。 (観察、記録カード)	
	9	・閉伊街道がR106として長い間、地域の生活に貢献していることを実感し、今の道づくりに関心をもつ。	・閉伊街道からR106への発展をまとめ、これからの道づくりに関心をもつことができる。	＜関＞昔の道づくりが今の生活に寄与している「未来につながる道」であったことに気づき、今の道づくりに関心をもっている。 (発言、ノート)	
今・未来・復興道路の建設	10 本時	・復興道路の特徴を調べ、その建設目的を鞭牛の道づくりと関連付けて考える。	・復興道路の特徴を調べる活動を通して、その建設目的や鞭牛の道づくりとの共通点について考え、表現することができる。	＜思＞復興道路建設の目的を鞭牛の道づくりと関連付けて「地域の人々の命を守るため」ととらえ、それを根拠付けて考え、表現している。	・復興道路の特徴や目的を考えることで、地域の人々の命を守るために道があることを実感するとともに、地域に対する理解と愛情をもつ。 【かかわる】 ⑭ 【復旧復興へのあゆみ】 ・震災時のR45の被害状況から地域の人々の願いや復興道路の必要性を考える。 【そなえる】 ⑯ 【自然災害のライフラインへの影響】
	11 12	・復興道路の工事現場を訪ね、前時の学習を深める。	・復興道路の工事現場を訪ね、その気づきをまとめるとともに、自分の目で地域が復興に向かう姿を実感することができる。	＜観＞復興道路の工事現場での気づきをその特徴や目的と関連付けて記録している。 (観察、ノート)	・地域の復興のために懸命に工事に従事する方の姿から自分たちの地域のすばらしさを実感する。 【かかわる】 ⑫ 【自分と地域社会】
	13 14	・昔から今、未来へと続くまちづくりを「道」をテーマに振り返り、グループごとに紙芝居作りに取り組み、交流する。	・今までの学習を生かし仲間と協力して「道」をテーマにした紙芝居作りに取り組むことができる。	＜関＞今までの学習を生かして意欲的に道づくりの変革を紙芝居に表そうとしている。	

4 本時の学習

(1) 目標

○復興道路の特徴を調べる活動を通して、鞭牛の道づくりと関連付けながら、その建設目的について考え、表現することができる。

(2) 評価規準

思考・判断・表現	<p>B おおむね満足</p> <p>復興道路建設の目的を鞭牛の道づくりと関連付けて「地域の人々の命を守るため」ととらえ、それを根拠付けて考え、表現している。 (発言、ノート)</p>
----------	--

<p><努力を要する児童への支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・R45と比較させながら復興道路の特徴を顕在化させるとともに、複数の資料提示によって、その建設目的に実感をもたせる。 ・既習の学習掲示を活用して、鞭牛の道づくりの目的との共通点に気付けるようにする。
--

(3) 社会科の視点、復興教育の視点からの手立て

<p><社会科の視点から></p> <p>ア R45と比較させて思考・判断・表現させることによって、復興道路の特徴や建設目的を顕在化させる。</p> <p>イ 復興道路の建設目的を、その特徴や既習の鞭牛の閉伊街道づくりと関連付け、調べたことや考えたことを表現させる。</p> <p><復興教育【仲間づくり】の視点から></p> <p>ア 復興道路を教材化することによって、震災から3年半が経った現在も地域が復興に向かって前進していることを実感させる。</p> <p style="text-align: center;">【人・こととのかかわり】 ⑭【復興・復旧へのあゆみ】</p> <p>イ 震災時のR45の被害状況から地域の人々の願いや復興道路の必要性を考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">【人・こととのかかわり】 ⑯【自然災害のライフラインへの影響】</p> <p>ウ 復興道路の建設目的を鞭牛の道づくりと関連付けて考えさせ、今昔ともに「命の道」としての道の存在を実感させるとともに、地域に対する理解と愛情をもてるようにする。</p> <p style="text-align: center;">【人・こととのかかわり】 ⑭【復興・復旧へのあゆみ】</p>	
--	--

(4) 展開

段階	学習活動 (○主発問) ・期待する児童の反応	○教師の支援	◎評価 ◇目指す児童の姿
つかむ 7分	<p>1 復興道路の地図、写真の提示から問いをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、R45のすぐ横に道路をつくっているのかな? ・どんな道路なのだろう? ・なぜ、復興道路という名前がついているのかな? <p>2 学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ、国道45号線の横にふっこう道路をつくっているのだろう。</p> </div>	<p>○八戸～仙台のR45・復興道路地図と写真を提示し、R45のすぐ横に道がつくられていることに問いをもたせたい。</p> <p>○児童の問いを拾いながら学習問題を設定する。</p>	<p>◇資料から復興道路についての問いをもっている。</p>
	<p>3 なぜ、復興道路をつくっているのかを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R45は被災したから、津波に備えるためではないか。 ・高速道路のような道路だからではないか。 ・2本あれば道路が混まないためではないか。 <p>4 復興道路の特徴を調べる。</p> <p>○R45と比べて、復興道路の特徴を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R45よりトンネルが多い。 ・R45よりカーブが少ない。 ・津波の浸水域を通っていない。 	<p>○地図や写真を手がかりに予想させる。</p> <p>○自由に予想を出させ、板書に位置付けていく。</p> <p>○宮古～田老の復興道路地図を配布し、その特徴を顕在化するためにR45と比較しながら調べさせる。</p> <p>○復興道路の特徴と関連付けながら、その目的(平常時と災害時)を写真やグラフ等の資料提示から考えさせたり、検証したりしていく。</p> <p style="text-align: center;">【トンネルが多くカーブが少ない】</p>	

<p>ふかめる</p> <p>30分</p>	<p>5 調べた結果を出し合い、復興道路の特徴を確かめ合いながら、その建設目的について考える。</p> <p>○調べた結果を出し合おう。それは、何のためなのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンネルが多く、カーブが少ない。 <ul style="list-style-type: none"> →目的地に速く行ける。 →事故が減る。 →救急車が速く病院に行ける。 ・津波の浸水域を通っていない。 <ul style="list-style-type: none"> →震災の時も安全だ。 →支援物資も速く、確実に運べる。 →避難場所にもなる。 <p>6 鞭牛の道づくりとの共通点について考える。</p> <p>○復興道路と鞭牛の閉伊街道と比べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも命の道だ。なぜなら・・・ <ul style="list-style-type: none"> →速く病院に行けることで命が救えるから →事故が減ることで命が救えるから →津波の時にも安全だから <p>7 三陸国道事務所の方のインタビューVTRを視聴する。</p>	<p>時間短縮、事故の減少、救急搬送の敏速化</p> <p>【津波浸水域外、避難階段】</p> <p>震災時の安全性、支援物資の確実な運搬、避難場所としての機能</p> <p>○R45の被災写真から、地域の人々の「安全な道が欲しい」という願いと災害時の復興道路の目的を考えさせていく。</p> <p>○「地域の人々の命を守る道」という点で、既習の鞭牛の閉伊街道と共通していることに気付かせ、その根拠を説明させていく。</p> <p>○閉伊街道がR106として今も地域に寄与していることと同様に、復興道路がこれからの未来の地域に寄与していくことにも気付かせ、「未来につながる道」という点でも共通していることにも気付かせたい。</p> <p>○既習の交通事故防止、防火、防災の学習でも関係機関が連携して自分たちの命を守ってくれていたことと結び付ける。</p> <p>○学習問題に立ち戻り、板書を振り返りながら、児童とともに口頭で学習をまとめる。</p> <p>○ここまでの学習を検証するためにVTRを視聴させるとともに、つくっている側の思いにふれさせる。</p>	<p>◇復興道路建設の目的を特徴と関連付けて考えている。</p> <p>◎復興道路建設の目的を鞭牛の道づくりと関連付けて「地域の人々の命を守るため」ととらえ、それを根拠付けて考え、表現している。(発言、ノート)</p>
<p>ひろげる</p> <p>8分</p>	<p>8 本時の学習をふりかえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ふっこう道路をつくっているのは、鞭牛のつくった閉伊かい道と同じように地いきの人達の命を守るためだということが分かった。なぜなら、病人の命をすくったり、津波からも命を守ったりしてくれるからだ。</p> <p>私達の命は、道路でも守られていることを知ってうれしく思った。そんな道路が今、つくられていることに感謝したい。</p> </div>	<p>○学習問題の答え、自分の考えの2段落構成でふりかえりを書かせる。</p>	<p style="text-align: center;">↓</p>

(5) 板書計画

